

技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

1. 題材名 「商品の選択と購入」 D(1)ア イ (2)ア

2. 題材について

○題材観・・・本題材では、現行学習指導要領「D 身近な消費生活と環境」の「(1)ア 自分や家族の消費生活に関心をもち、消費者の基本的な権利と責任について理解すること」、「(1)イ 販売方法の特徴について知り、生活に必要な物資・サービスの適切な選択、購入及び活用ができること」、「(2)ア 自分や家族の消費生活が環境に与える影響について考え、環境に配慮した消費生活について工夫し、実践できること」から構成している。

昨年度から本校では、「附属中オリジナルグッズ」の販売を始めてきたが、昨年度まではPTAの方が商品を考え販売する形式であった。今回この授業を行うにあたり、自分たちが実際に使いたいオリジナルグッズを考え、プレゼンする活動を行うことで、消費生活の内容で必要な「持続可能な社会の構築」の視点でも授業を行うことができると考えた。

中学生も一人の消費者であり、何か「もの」を買うときには、必要性を考え、商品を適切に選択していく必要がある。さらに、それらの消費行動をESDの視点で考えることで、自分たちの消費行動がこれからの持続可能な社会の構築の視点にもつながっていくことを意識付けながら、本時の授業を行っていききたい。

○生徒観・・・3年生156人対象に消費生活アンケートを実施した。(H29年8月実施)

質問1 買い物で失敗した経験はありますか？

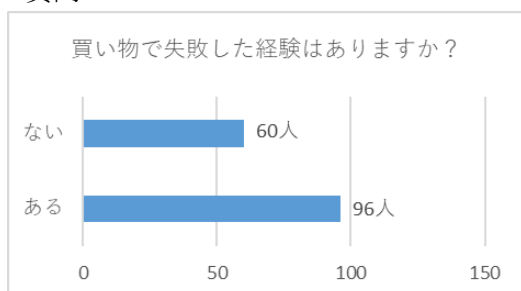
質問2 これまで自分でお店に行ってお店に買ったものは何ですか？

質問3 買う前に必要か考えていますか？

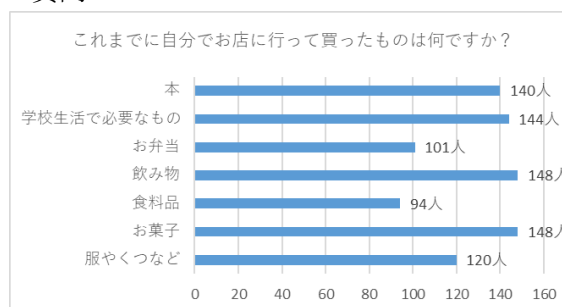
質問4 できるだけ大切に、長く使おうとしていますか？

質問5 廃棄のことまで考えて購入していますか？

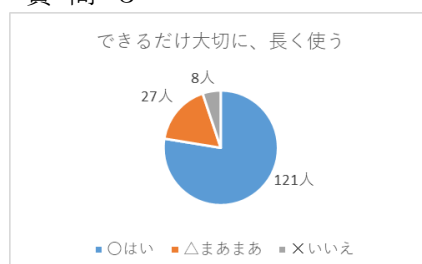
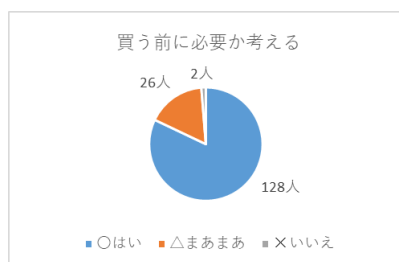
質問1



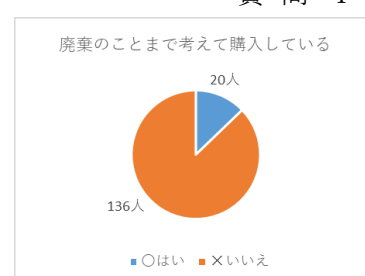
質問2



質問3



質問4



質問5

質問1の回答結果

- | | | |
|------------------|---------------------|------------|
| ・必要のないものを買ってしまった | ・同じものを持っていた | ・サイズを間違えた |
| ・服を買ったが一度も着なかった | ・買ったものが壊れていた | ・使い心地が悪かった |
| ・食べきれない量を買ってしまった | ・同じものなのに店によって値段が違った | |

質問5の回答結果（廃棄のことまで考えて購入している生徒の回答）

- | | | |
|-------------|--------------------|--------------|
| ・分別して捨てられるか | ・できるだけ長く使えるものを買いたい | ・リサイクルできるものか |
|-------------|--------------------|--------------|

実施した調査結果より、買い物で失敗した経験のある生徒は61.5%おり、買う前に必要か考える生徒は82.1%だった。買う前に必要か考えて購入しても、衝動買いしてしまったり、よく確認せず購入してしまう生徒がいることが分かった。また、できるだけ大切に長く使うと回答した生徒が77.6%いるのにも関わらず、廃棄のことまで考えて購入している生徒は12.8%しかおらず、大切に長く使いたいと考えている生徒は多くいるものの、その先の廃棄のことまで考えて購入している生徒が少ないことが分かった。今回のアンケート結果からも、本研究で行う「持続可能な社会の構築に関わる課題を見だし、それらを解決するために必要な能力や態度を身に付けさせること」の必要性が分かる結果となった。

3. 《題材の評価規準》

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 自分や家族の消費生活について関心をもち、消費の在り方を改善しようとしている。 自分や家族の消費生活が社会に与える影響について関心をもち、よりよい消費生活を実践しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 物資・サービス（用途に応じたもの）の選択、購入及び活用について、課題を見つけ、その解決を目指している。 	<ul style="list-style-type: none"> 物資・サービス（用途に応じたもの）の選択、購入及び活用について、必要な情報を収集・整理することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 消費者の基本的な権利と責任に関する基礎的・基本的な知識を身につけている。 物資・サービス（用途に応じたもの）の選択、購入及び活用に関する知識を身につけている。

4. 各時間における指導と評価の計画（全10時間）

時間数	学習内容	評価規準			
		生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
1	消費生活のしくみについて考えよう		消費生活のしくみが分かり、自覚をもって生活に生かそうと工夫している。		物資・サービスの意味を理解している。 消費生活のしくみを理解している。
2	ものを買うということ ～商品購入のプロセスについて～	自分自身の消費行動に関心をもち、課題をもって取り組もうとしている。			商品購入のプロセスについて理解している。
3	値段ってどのようにしているの？ ～3つのほうれん草を比較しよう～	値段について関心をもち、正しく商品を選択・購入しようとしている。			
4 5	広告からの情報を読み取ってみよう ～衣服・食料品の広告の活用と広告作り～	消費者と販売者の両方の立場に立って、広告に書かれている内容を意欲的に調べようとしている。			
6	消費者の権利と責任 ～消費者としての自覚～	自分や家族の消費生活が社会に与える影響について関心をもち、よりよい消費生活を実践しようとしている。			消費者の基本的な権利と責任に関する基礎的・基本的な知識を身につけている。

7 8	附属中オリジナルグッズを 開発しよう！（企画編・グ ループ活動）	オリジナルグッズを考 える活動（個人・グル ープ活動）に意欲的に 取り組もうとしている 。	使用用途や目的、環境 面を考えて、内容を工 夫している。		販売者として、商品を 企画するときに考え るべき権利と責任に ついて理解している。
9 本 時	附属中オリジナルグッズを 開発しよう！（グループ活 動・プレゼン編）	同じアイデアを出した 仲間とグループ活動を 通して、仲間と協力し て多くのアイデアを出 そうと意欲的に取り組 んでいる。	RTDの活動を通して、仲 間の良いところを取り 入れながら、使用用途 や目的、環境面を考え て、内容を工夫してい る。		消費者として商品を 購入するときに考え るべき権利と責任に ついて、理解すること ができる。
10	購入方法と支払い方法につ いて ～あなたならどうやって買 う？～	身近な販売方法に関心 をもち、その利点と問 題点について考えよう としている。			購入方法と支払い方 法に関する特徴を 理解している。

5. 前時までの授業（2時間分）

(1) 学習内容 「 附属中オリジナルグッズを開発しよう！（企画編） 」

(2) 本時の目標

- ・グループ活動において、他者の意見を尊重し、協力してオリジナルグッズの企画を考えている。
- ・販売者として、商品を企画するときに考えるべき権利と責任について理解している。

段階	時間	学習活動	教師の指導・支援	備考
導 入	5	○今までの学習を振り返る。 ○本時の流れの確認をする。	○消費者の権利と責任について、再度復習をす る。	学習プ リント
展 開	80	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> 附属中オリジナルグッズを開発しよう！（企画編） </div> <p>○個人で、一昨年からはまった附属中オリジ ナルグッズで販売したいものについて考える。</p> <p>○同じものを考えた人たちでグループを作り、 さらに企画書を練っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傘（3人）・シャーペンなど文房具（7人） ・時計（3人）・鞆やパスモケース（5人） ・クリアファイル（3人）・Tシャツ（7人） ・ブックカバー（6人）・ポーチ（2人） ・ハンカチやタオル（3人） <p>○RTDの手法を用いて、 ①他のグループのよいところをほめる「応援カード ②他のグループの考えた内容を盗む「スパイカード を提示し、自分たちの考えたグッズをさらによくする ために、他の人たちからの意見も踏まえながら考え、</p>	<p>○オリジナルグッズを考えるにあたり、環境面 や材料費、使いやすさなど、「持続可能な社会 」の視点でも考えるよう指導する。</p> <p>○グループの人たちの意見を尊重し合いながら 話し合うよう指導する。</p> <p>○応援カードでは、どの内容でもよいので全員 が他のグループを見て回り、よいところを応援 するよう指導する。</p> <p>○スパイカードでは、他のグループの良いこと ころを盗み、自分たちのアイデアを増やしてい</p>	発表原 稿 プレゼ ン資料 PC プロジ ェク ター

		模造紙に書き込んでいく。	けるよう声かけをしていく。	
まとめ	15	○他のグループからのアドバイスをもう一度まとめ、次回発表会をすることを確認する。	○さらによいものを開発していけるよう、声かけをする。	ワークシート

6. 本時の授業

- (1) 日時 平成29年10月21日(土)
- (2) 場所 3階 第一コンピュータ室
- (3) 学習内容 「 附属中オリジナルグッズを開発しよう! 」
- (4) 本時の目標

- ・消費者として商品を企画・購入するときに考えるべき権利と責任について、理解することができる。
- ・今までの学習を振り返り、自立した消費者としての責任ある消費行動を考え、工夫することができる。

段階	時間	学習活動	教師の指導・支援	備考
導入	5	○今までの学習を振り返る。 ○本時の流れの確認をする。	○グループで前時までの考えをもう一度確認するよう指示する。	学習プリント
展開	15	<p>グループで考えた附属中オリジナルグッズをプレゼンしよう!</p>		学習プリント 模造紙 プレゼン資料
	27	○RTDの手法を用いて、前時よりもさらによいものを考えたり、違う視点で物事を考えられるようにするために、他のグループを批判する ^ネ ガティブカード を提示する。 ○発表する準備をするために 決めるカード を提示する。(最終的にオリジナルグッズは何にするか、誰が発表するかを決める。) ○各班3分以内で、オリジナルグッズのプレゼンを行う。	○前時までは他のグループのよいところをほめる 応援カード や他のグループの考えた内容を盗む スパイカード を使ってきたが、今回は他のグループを批判する内容なので注意深く観察していく。 ○ ネガティブカード のルールとして、否定するのではなく、もっとこうした方がよいというのが分かるような意見の伝え方にするよう指導する。 ○ 決めるカード のルールとして、発表者を一人決め、自分たちのオリジナルグッズの売りを発表できるように伝える。 ○聞く側は、消費者の立場に立って考えるよう指導する。 ○最終的にはPTAの方に判断してもらい、どのグッズを販売できるのか決めてもらうことを伝える。	
まとめ	3	○これまでに行ったオリジナルグッズの企画・プレゼンについてのまとめを行う。	○消費者として、これからも商品を選ぶときには、値段やデザインだけでなく、社会や環境に与える影響についても考え、よりよい消費生活を築いていく必要性を伝えていく。	

〈引用・参考文献〉

- ・「中学校学習指導要領解説 技術・家庭科編」 文部科学省（平成20年9月）
- ・「中学校学習指導要領解説 技術・家庭科編」 文部科学省（平成29年6月）
- ・「評価規準の作成評価方法等の工夫改善のための参考資料」 国立教育政策研究所（平成23年11月）
- ・中央教育審議会答申「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」 文部科学省（平成28年12月21日）
- ・「ESDの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み」 国立教育政策研究所 教育課程研究センター
- ・持続可能な開発のための教育（日本ユネスコ国内委員会） 文部科学省
- ・山梨大学教育学部附属中学校研究紀要（平成28年度）
- ・新しい消費者教育 これからの消費生活を考える 慶應義塾大学出版会 編著 神山久美・中村年春・細川幸一
- ・消費者教育学の地平 編著 西村 隆男